

## 平成 30 年度 第 2 回学校運営協議会議事

日時：平成 30 年 10 月 6 日（土）14:00～16:00

場所：大阪府立茨木高等学校 校長室

出席者：【 委 員 】 添田晴雄、岩井八郎、柴田仁、中村卓、樫本佳子、石崎亜矢子  
【校長・事務局】 岡崎守夫、山脇和美、太田明美、富本佳照、本管克江、神前喬、  
前田保彦

1. 開会の辞
2. 校長挨拶
3. 議事
  - (1) 本年度の各取組みについて
  - (2) 教科書選定結果について
  - (3) 質疑応答
  - (4) 次回運営協議会日程
4. 閉会の辞

事務局からの「議事」に係る説明

- (1) 本年度の各取組みについて

<校長より>

本年度「学校経営計画」の「中期的目標」について

年度途中であり、多くの取組みが現在実施中、あるいは実施に向けての準備中である。この後、各担当から、その進捗状況について説明する。

3「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築の指標として、現在は「一人当たりの年間遅刻数」を用いているが、より本校にふさわしい指標についての委員のみなさまのご意見を伺いたい。

各取組みの進捗状況等についての事務局からの説明

GLHS 指定校としての取組み

### ① 茨木B&Sプログラム（大阪大学留学生等との交流）

今年度は12月15日（土）に大阪大学から留学生約60名を招聘し、第1学年の生徒との交流を予定している。来年度の宿泊野外行事の行き先がカンボジアであるため、カンボジア出身の留学生も招聘するメンバーの中に入れていただきたいことや交流内容について、適宜、大阪大学国際教育交流センターとの打ち合わせを行っているところである。

## ② TOEFL iBT Complete Practice Test

現3年生は、今年度設定した3回の受験日の中で、1回目44名、2回目36名、3回目5名が受験し、3年間を通じて80名以上という目標はクリアした。2年生76名は授業の中で受験中である。また、1年生は全員が12月にGTECを受験する予定である。

## ③ 東京スタディーツアー

8月6日・7日に実施した。今年度は東京大学と東京医科歯科大学の研究室を訪問し、講義を受け、見学を行った。参加者は9名と、例年より少なめであったが、事後の感想を見ると、今回の取組みに参加したことで、これからの高校生活や進路選択に向けて大きな影響を受けたことがうかがえる。

また、同じく夏休み期間中に実施した「京都大学研究室訪問」の参加者は約90名であった。各研究室において実験や少人数講座を経験することで、各分野への興味が深まり、事後の感想からは、これからの高校生活や進路選択に向けて、大きな影響を受けたことがうかがえる。

## ④ 学問発見講座・卒業生講座の開催

「学問発見講座」は7月14日（土）に実施した。本校の卒業生を含め、大学から14名の講師を招聘し、それぞれ80分の講義をしていただいた。参加生徒はのべ452名で、事後のアンケートでは、講義内容の満足度、理解度共に、高い数値が得られた。

「卒業生講座」は10月13日（土）に実施予定である。大学などの研究機関や専門職・一般企業の第一線で活躍されている方々10名を招聘し、それぞれ90分の講座をお願いしている。

## ⑤ 茨木高校OBによる講話

教育実習期間の5月31日（木）・6月7日（木）、教育実習生に進路ホームルームの時間に全学年の生徒へ大学の学部や学科・研究内容などを話してもらった。現役大学生から話を聞くことで、生徒にとってはより具体的に進路について考える機会となった。

## ⑥ リーダー育成プログラムⅠ

クラブ代表者を育成することにより、部活動の活性化と部活動を自主的に運営する意識の向上をはかるプログラムである。今年度はこれまで、7回実施した。このプログラムはクラブ代表者会議が中心となるが、過去には、部活動後の自習室の開設や部活動の活動時間30分延長などが提案された。

## ⑦ リーダー育成プログラムⅡ

HR運営委員を育成することにより、HR環境の向上をはかるプログラムである。今年度はこれまで6回実施した。後期は、新入生歓迎オリエンテーションに向けた取組みが中心課題となる。

### ⑧ リーダー育成プログラムⅢ

理学療法士を多数招聘し、各部活動が、傷害治療・傷害予防はもちろん、個々人のパフォーマンス向上等のための支援を受けるプログラムである。今年度はこれまで、6回実施した。

これらのリーダー育成プログラムⅠ～Ⅲは、毎年新たな生徒を対象にしてゼロの状態から取り組んでいくものである。

### ⑨ 豊かな感性を育むプログラム

今年度は、音楽会を平成31年3月7日（木）立命館大学フューチャープラザ グランドホールにて、美術科・書道科展を平成31年2月18日（土）～2月20日（火）本校多目的ホールにて実施する予定。

### 骨太の英語力養成事業の取組み

#### ① 73期 英語イマージョンプログラムⅠ

今年度は12月25日（火）・26日（水）にディスカッションとプレゼンテーションを授業形式の中心とした、50分×6コマ×2日間の英語集中プログラムを実施予定。

#### ② 72期 英語イマージョンプログラムⅡ

今年度は平成31年1月6日（日）・7日（月）にディベート及びディスカッションの演習を中心とした、50分×6コマ×2日間の英語集中プログラムを実施予定。

### （2）教科書の選定について

平成31年度の使用教科書について、各教科で慎重に検討した結果、「平成31年度使用教科書（選定・採択）一覧表の通り選定した。なお、それぞれの教科書についての選定理由は「平成31年度使用教科書選定理由一覧表」の通り。また、本日は教科書の実物も準備しておりますので、後ほどどうぞご覧ください。

### （3）質疑応答

<TOEFL iBT Complete Practice Test について>

委員：先ほどの説明で、3年間やり通した生徒たちは、CEFR A2のレベルはクリアしていると考えてよいのか。

事務局：全員A2はクリアしています。

<学問発見講座について>

委員：「学問発見講座」は、もっと参加人数があってもよいのではないかと思うが、生徒たちは、申し込み段階でそれぞれの講座の内容を知っているのか。

事務局：それぞれの講座は、タイトルだけでなく、講義の内容を紹介したものを生徒に提示

している。

委員：参加生徒は何年生が多いのか。

事務局：現在は、1、2年生が多い。

委員：3年生も含めて全員に参加するよう呼びかけてもよいのではないか。

事務局：参加人数が増えるのはよいことだが、それぞれの講座の定員もあり、なかなか難しい。

委員：呼びかけるのはよいが、「必ず参加しなさい。」などと強制するのは茨高のやりかたではない。

委員：保護者の立場からすると、1年生に限っては強制でもよいのではないかと思う。

まとめ：生徒が積極的に参加したくなるようなアピールの仕方を工夫することと、参加人数が増えた場合の受け皿を考えることが大切になってくる。

#### <研究室訪問について>

委員：「学問発見講座」と同様に、参加を促すために、各研究室から、高校生向けのメッセージのようなものを書いてもらったらどうか。

事務局：「研究室訪問」についても、参加を強制していない。「研究室訪問」だけではなく、夏休みに各大学で実施されるオープンキャンパスへも「必ず参加しなさい。」というのではなく、自主的に参加してほしいと思っている。

委員：自主的に参加するということを目標にするならばオープンキャンパスに参加して、そのレポートを提出させるという方法はそぐわないように感じる。自主自律の精神へとつながっていくことが大切である。

#### <イマージョンプログラムについて>

委員：実施にあたっての業者の選定等はどのようにしているのか。

事務局：授業内容などを伝え、こちらの要求する条件でカリキュラムを作ってくれる業者を選定したい。現在、実績もあり、学校側の要求以上の水準でカリキュラムを作成してくれる業者を検討中である。

委員：以前イマージョンプログラムで行っていた TOEFL の指導はどうなるのか。

事務局：イマージョンプログラムⅠは、2年次の宿泊野外活動につながるものとして考えている。イマージョンプログラムⅡは、2年後期の英語でのディベートと連動させていくものとして考えている。このプログラム経験者が、その後のディベートで軸となって、他の生徒を引っ張っていくことが期待される。

これまでの経緯を説明すると、68期からイマージョンプログラムに TOEFL のトレーニングを取り入れた。すると、ディベートのテーマが TOEFL で要求されるレベルとなり、内容に深みがなく物足らなさを感じる結果となってしまった。そこで、現在は、TOEFL のトレーニングも取り入れながら、ディベートのテーマのレベルを元に戻そうと取り組んでいる。英語だけでなく、テーマも一定のレベルのものにしたい

と考えている。

<「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築の指標について>

委員：・リーダーとなる経験など、これが大切というものを重視していくとよい。

- ・社会参画、ボランティア活動等、生徒たちがしたことを発信していくことが大切である。
- ・いかに人のために行動できるかを考えていくとよい。
- ・生徒全般にわたることではないと、数値化できないのではないか。
- ・部活動等「二兎を追う」という点で考えていけるのではないか。
- ・生徒会でボランティア活動を募り、その活動回数等を指標とするのはどうか。
- ・人の行動を見て、自分自身も学ぶことができる。
- ・社会活動等は時間がなかなかとれないのではないかと思うが、自主的にするもの（自分で見つけてきた活動）と、学校が紹介して募るもの等、いろいろあってよい。

事務局：現在は、ボランティアサークルも立ち上がっている。掲示板でさまざまな活動を知らせるだけで、応募者が出る。それも自主自律の精神といえるのではないかと思う。

委員：・学問発見講座や卒業生講座も参加を強制されているわけではないので、その参加者数も指標にしてよいのではないか。

- ・新たに何かを始めるというのではなく、現状行われていることを取り出して、数値にすればよい。
- ・茨高生は、さまざまな活動に取り組んでいるということが発信されれば、地域連携なども、今以上に活発になるかもしれない。

まとめ：以下のように、複数のものを指標としてよいのではないか。

1. ボランティア活動、コンサート等、学校外での活動
2. 部活動、新入生歓迎オリエンテーション、行事委員の活動等、生徒が主体となっている活動
3. 学問発見講座、卒業生講座、研究室訪問等の参加人数
4. 生徒自身に指標を考えさせる

校長：今回いただいたご意見をもとに、次年度以降の計画を検討していく。

(4) 次回運営協議会の日程

第3回学校運営協議会 平成31年2月16日(土) 午後2時～4時